The Tokyo Branch Letter No.59 RSCDS東京ブランチ
東京ブランチレター April 2003
A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society
Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

2003年会員登録のお願い

ことしもまたRSCDS本部/東京支部会員登録の時期となりました。いっそうの活動充実をめざしますので、昨年を上回る会員登録を願っております。

1. 会員の種類と年会費

(1) 東京支部から本部へ会員登録するかた

a. 年次会員(更新・新規とも)・・・計¥4,500
東京支部年会費・・・¥2,000
本部年会費・・・・・・¥2,500 (£10x ¥250/£)

b. 長期会員および終身会員
東京支部年会費・・・¥2,000
(ことし長期会員資格満了となるかたは、長期会員制度は停止となっているため、上記の年次会員で申込んでください)

(2) 他の支部から本部へ会員登録するかた
東京支部年会費・・・¥2,000
(事務手続上、他支部名を○で囲んでください)

2. 無料配布品・・・Book 43です。これがご不要のかたはBook 1-42またはポケット版Book 1-41あるいはポケット版インデックスのなかから1冊、ご希望の品をご記入ください。

3. 申込み方法

同封の郵便振替用紙に、単名で下記の必要事項をご記入のうえ、会費をお払込みください。

郵便振替 00160−9− 64023
RSCDS 東京ブランチ

＊氏 名
＊タイトル(Mr., Mrs.、Ms.またはMiss)をつけて、ローマ字による氏名
＊郵便番号 および 住所
＊電話番号 (Faxつきのときは、Fをつけて)
＊E-mail アドレス (アンダーバーとハイフンを区別してください)

4. 締切り: 4月25日(金)

まだ時間があると思わずに、即刻お申込みされることをおすすめします。郵便振替用紙が不足する方は、セクレタリまでご要求されるか、郵便局備え付けの用紙に所要事項ご記入のうえお申込みください。

5. お問い合わせは
セクレタリ 鈴木百代 T/F 049-296-1766■

2003年支部年次総会

大勢の会員のご出席をお待ちしております。
6月7日(土) 午後1.30−5.00
(会場確保中)

議題: 1. 2002年度活動報告
2. 2002年度会計報告
3. 2003年度役員改選
4. 2003年度活動計画
5. 2003年度予算
6. RSCDS功労者賞受賞推進
7. その他

年次総会終了後、ソシャル・ダンシングをお楽しみください。

The Machine without Horses	12-12
Swiss Lassie	39-1
Balquidder Strathspey	24-2
Kendall's Hornpipe	Gr-22
The Drummer	20-7
Lady Susan Montgomery	Lflt-17
The Jubilee Jig	Lflt-11
The De'il Amang the Tailors	14-7
Extra: A Trip to the Netherlands	32-6
Follow Me Home	38-3
The Lea Rig	21-5
Mairi's Wedding	Cosh

(難曲にウォークスルーあり)

小海弘子さん、サマースクールのピアニストに!

支部行事でおなじみの小海弘子さんが実力をかわれ、ことしのRSCDSサマースクールでピアニストをつとめるよう、昨年12月、本部から予備連絡がありました。正式通知は未着ですが、ほぼ確定と思われます。おめでとう!健闘を祈ります■

これからの支部主要行事予定

2003.4-5月	Exams Tokyo 2003
2003.6.7	年次総会
9月	Book 43 講習会
秋	RSCDS 80周年記念行事
2004.1初	New Year Dance 2004
2004.2.14-15	2004合宿(石川島研修センター)■

東京支部クラス

ビギナーズ・クラス

４月７日（月）・28 日（月）１：30-４：30
（４月は第１・第４土曜日）
千代田区総合体育館５階・多目的室　¥800
冬季のレッスン時間不足をとりもどすため、クラスを４月まで延長します。
５月から半年の予定で新しくビギナーズ・クラスを開きます。お知り合いのかたにご連絡を（毎月第２・第４土曜日）。
講師：中田多鶴子・トム鳥山
（５月から新講師）
担当：松田正子

ステップ・ダンス・クラス

４月は学校行事優先のため休み
毎月第２土曜日 1：15-2：05　¥800
講師：櫻井香枝
（会場はそのつどお知らせします）
担当：池間悦子

インターミディエイト・クラス

４月は学校行事優先のため休み
毎月第２土曜日 2：15-４：30
５月 10 日：Helen Frame（赤羽北区民センター）
講師予定　６月：佐藤仁美
（会場は別途お知らせします）
担当：池間悦子

アドバンスド・クラス

４月５日（土）6：20-8：45
北赤羽駅　赤羽北　区民センター
講師：クレメント篤子
５月３日：Helen Frame（赤羽台東小学校体育館）
６月：年次総会のため休み
担当：若松陽子■

RSCDS 東京支部

チェアマン　鳥山豊喜（トム鳥山）T/F 044-988-7773
Email: Tomtori@aol.com
セクレタリ　鈴木百代　T/F 049-296-1766
〒350-0313 埼玉・鳩山町松ヶ丘 1-3-7
Email: momo-gon@mbj.niffty.com
トレジャラ　境　雅子　T/F 047-368-3873
Email: spey3@aol.com
委員会メンバー　池間悦子　T/F 045-982-8528
佐藤裕治　T/F 0424-86-3929
藤田淑子　T/F 044-954-7235
松田正子　T/F 0438-23-0475
若松陽子　T/F 042-593-2446
ホームページ　www.ne.jp/asahi/tokyo/branch/
同担当　吉澤敦子　T/F 0298-41-0767
Email: st6a-yszw@asahi-net.or.jp

Exams Tokyo 2003

フル資格試験組 Tutor（トレーニング教師）のヘレン・フレームが４月 11 日（金）に来日し、５月９日の予備試験組の試験終了まで約１ヵ月間にわたり東京支部はこの重要課題に取り組みます。みなさんのご協力をお願い申しあげます。受験生、ベストをつくしてください！　(Tom Toriyama)

(トレーニング時のクルー)

トレーニング中、食事や休憩時の飲物準備・宿舎と会場間の移送・会場の整理・エキストラダンサーなどの仕事を行なっていただくクルーをつのっております。また、実行委員会からこれをお願いすることがあり、その際にはご協力をお願いします。

(指導試験におけるスチューデント)

ご承知のとおり、指導試験において少なくとも延べ 192 人のスチューデントが必要です。

フル資格試験:
4 月 27 日（日）進修館（東武動物公園駅）32 名
4 月 28 日（月）　同上　32 名
4 月 29 日（火・休）　同上　32 名
4 月 30 日（水）春日部文化センター（春日部駅）32 名

予備試験:
5 月 8 日(木)千葉市文化センター（千葉駅）32 名
5 月 9 日(金)　同上　32 名

(いずれも 9:30-16:00)

交通費、昼食は自弁のボランティアです。スチューデントのレベルはさまざまであることが望ましいため、２年以上のダンス経験があればどなたでも、

セクレタリ　鈴木百代　T/F 049-296-1766

まで参加ご希望をお寄せください。

締切り:4 月 10 日(木)

(筆記答案英訳)

受験生が記入した和文答案を、エグザミナーには英文とともに提出するため、これを英訳します。過去の経験では解釈困難な和文答案もあって苦労する作業ですが、別途適任のかたにご依頼いたしますので、ご協力お願い申しあげます。

集中英訳日：
フル資格試験　4 月 26 日(土)
予備試験　5 月 4 日(日) ■

支部役員立候補受付

支部運営委員全員の任期は1年のため、きたる年次総会において2003年度運営委員を選挙します。立候補（推薦を含む。以下同じ）されるかたは選挙管理委員までお申し越しください。東京支部を通じて本部会員登録したかたが立候補できます。

選挙管理委員
近藤幸子　T/F 03-3916-5051
吉澤敦子　T/F 0298-41-0767
立候補締切　5月10日

なお、推薦の場合は必ず被推薦者の同意を得てください（勝手推薦不可）。(Tom Toriyama)■

ヘレンは名古屋・長岡・埼玉に

前号ブランチレターでExams Tokyo 2003のチューター終了後、ヘレン・フレームのティーチングでクラスを開きたいグループをつのりました。支部主催のクラスを含め、つぎのとおりきまりましたのでお知らせいたします。(鈴木百代)

5月3日（土）支部アドバンスド・クラス
5月4日（日）移動
5月5日（月）瀬戸・尾張旭スタディ
5月6日（火）同　上
5月7日（水）移動およびアンティーズ
5月8日（木）アンティーズ
5月9日（金）RSCDS埼玉ブランチ
5月10日（土）支部ｲﾝﾀｰﾐﾃﾞｨｴｲﾄ･ｸﾗｽ■

RSCDS 80周年

ことし2003年はRSCDS創立80周年にあたり、東京ブランチでもこれを祝う記念行事を10月中旬あたりに行ないたいと思っています。

みなさんからのアイデアを参考に内容を計画したいと存じます。どうぞご意見をセクレタリまでお寄せください■

はがきをありがとう

不要となった未使用年賀はがきのご提供をお願いしたところ、合計268枚のはがきに加え各種切手のご提供を多くのかたからいただきました。ブランチクラスのお知らせに使うはがきの1ヶ月分強にあたります。たくさんのはがきと切手、どうもありがとうございます■

本部年会報を同封します

RSCDS Bulletin No.80（昨年10月発行）をお送りします。この年会報（会員証も）、ブランチレター前号をお送りした直後に到着し、費用節減のため今回の送付となりました。遅れましたことをおわびします。内容概略はp.5-8をご参照ください。

来年はブランチ20周年

RSCDS 80周年に引き続いて、2004年は東京支部が生まれて20年になります。ことしから準備をはじめればすてきな記念行事にすることができるでしょう。

いつごろ、どこで、なにを、どんなふうにやればよいか、これもみなさんからのアイデアを参考に計画したく、どうぞご意見をセクレタリまでお寄せください■

支部会費は据置き

—支部拡大委員会報告—

2003合宿講習の合間に全参加者が出席して拡大委員会（ミニ総会）が開かれました。

1．2003年度支部年会費の据置き

（委員会説明）行事参加費の値上げ、物品販売の拡大などで約80万円の収入増が予想され、来年度の年会費の値上げは回避できる見込み。年間の支出は約200万円、これに対し会費収入は130万円で、不足分をなんらかの手段によって補わなければすぐに会費値上げにつながるため、これからも注意を要する。

2．2002年度活動に関する質問・意見

1）年会報に会員の住所、電話番号を載せなかったのは？

—個人情報保護のため。載せたほうがよいという声が多ければ復活する。

2）ビギナーズ・クラスの講師変更にみられるように、やり方が突然変更されるのはいかがなものか。

—唐突な印象をあたえて申し訳ない。これからは前広にお知らせする。

3）最近のブランチレターの字が小さい。

—紙面構成、割付の面で困難なところがあるが、いろいろ工夫してみたい。

3．ブランチレター紙名

圧倒的多数で現行どおり「東京ブランチレター」を決定■

ブランチショップ開店

RSCDS グッズがご購入いただけるブランチショップを開店いたします。本号折込みの RSCDS プライス・リスト（他支部から本部登録したかたは、その支部からリストをお取り寄せください）から商品をお選びになり、「ブランチショップ注文書」にご記入のうえ、下記のとおりお送りください**〔注文略号：ブランチショップ〕**。

今回これぞと思われる商品は、

Leaflet Dances (£10.80)…リーフレットで発行された全 31 ダンスをリング・バインディング（輪とじ）で合本にしたもの。ダンスを ABC 順に収録しているため、ポケット版 No.1 の *The Silver Tassie* は No.30 になっている。公式の番号は今後この新本に準拠される。*Broadford Bay, New Beggin* なども収録済み。楽譜つき。

Index: Pocket Edition (£1.55)…Book 42 (2002)までの RSCDS 全ダンスのインデックス最新版。旧版は Book 39 (1996)までダンスであった。大きなサイズのインデックスがほしいところだが、いま現在はこのポケット判のみ。

Pocket Editions-Books 1, 2 & 3 (£2.70)…2001 年版である。旧版から大幅に改定されており、たとえば *Meg Merrilees* の Bars 9-16 の動きかたはよりわかりやすく述べられている。

同じく **Pocket Editions** で改定されているものに
Books 7, 8 & 9－1999
Books 28 & 29－1998 があり、旧版をお持ちなら差し替えをおすすめする。

なお、カセットテープであるが、本部は CD 化を進めており、在庫切れとなったカセットの再製作は中止となっている。ご注文のカセットが品切れの場合はお許しいただきたい(Tom Toriyama)。

「ブランチショップ注文書」と代金をつぎにお送りください。

「注文書」…〒215-0004 川崎市麻生区万福寺
1-16-24-901　藤田淑子

代金…ポンドあたり¥250 で換算した金額を郵便振替でご送金ください（**注文略号：ブランチショップ。**他の CD との合算可）。

00240－0－ 63517
東京ブランチ
締切り：4 月 25 日(金)まで

「注文書」と代金、両方の受領により注文受付けとなります。

商品配布予定：７月上旬（船便のため）

（担当　藤田淑子）■

Book 45 は各支部の Book から？

「新 Book は２年ごとに発行」と理解していましたが、時移り人変って、ことし Book 43（戴冠 50 年記念ブック）、来年は Book 44 というように、毎年の Book 発行になる気配です。

本部から「Book 45 に入れるダンスを検討するため、支部出版物のなかから好まれているダンス（単数）を出版物とともに送ってほしい」との 1 月 17 日付の依頼を受領しました。

東京支部出版物といえば 10 周年記念コレクションがあり、このなかからとなりますが、この依頼にどう対処するか、毎年の Book 発行の是非を含めて、委員会において検討中です■

World Day of Dance

(Tom Toriyama)

本部は本年６月 14 日（土）を World Day of Dance と定め、この日正午を期してスコティッシュ・ダンス・グループはもちろんのこと、フォークダンス・グループ、オールドタイム、スクェア、ラテン、社交ダンスその他あらゆるダンス・グループで *Gay Gordons* と *Jubilee Jig* の２曲を踊ってもらうよう働きかけろ、と連絡してきました。また市町村、通り、公園、スポーツセンター、あらゆる場所でこの２曲を踊れ、とも。

この「世界ダンスの日」、国連あるいは国際ダンス連盟といったような世界機関が定めたのかと思ったらそうではなく、本部独自の指示です。

英国では本部と大手スーパー、テスコ TESCO との提携により各地で開催が計画されています。

RSCDS とテスコ本社との合意により、テスコ各店は駐車場をダンスのために開放する、ただしテスコ本社の通達が末端まで伝わっていないこともあるので、事前に各店支配人とよく打ち合わせること、とあります。日本に置き換えてみれば、イトーヨーカドーは何か変わったことをやって客を引き寄せたい、東京支部はスコティッシュ・ダンスを PR し普及させたい、両者の思惑が一致して10分だけダンスにスーパーの駐車場を使う、というところです。

日本ではすでに高温高湿の時期で、かつ野外の公共場所利用にたいへんな規制があります。東京支部はクラスの場所確保さえ四苦八苦している状況であり、またいろいろなダンス・グループにこの呼びかけを行なう実力をそなえておりません。けれども、各スコティッシュ・ダンス・グループにおかれては、なるべく本部主旨に沿って行事をやっていただければ幸いです■

Bulletin No.80 の概要

p.2-本部セクレタリ、エルスペス・グレイの編集のことば。 今年も忙しく編集に長時間を要した。各イベントで大勢の人に会えてうれしかった。リンダ・ゴールが編集を手伝ってくれた。

p.3-会長マンスフィールド卿と〔前〕チェアマン、アラン・メアのあいさつ。 **会長**-執行機構の変更を決定した2001年AGMに出席できてうれしい。新機構がスムーズに運営されることを期待。イースタースクール、CD化、ソサエティと地理学協会との共同作品、各定例行事の成功を願う。SCDの普及に皆さん一丸となっているのを信じる。

チェアマン-2年間、忙しかったけれど楽しかった。最大の要件は執行機構の変更であった。新機構も世界の会員の協力なしにはうまく運ばない〔のでよろしく〕。全世界会員がわたしを支えてくれたが、とくにエルスペスと本部チームには感謝している。

p.4-6-2001/02 年次報告。 会員数 20,186、166支部、449のアフィリエート・グループ。重要課題は新機構の具体化だった。7名の功労者受賞者を推薦。〔ポリッジ製造の〕ハムリンズ社から二千ポンドの寄贈。

RSCDS が VAT を払うべきかどうか、外部コンサルタントの最終結論は出ていないが、年会費収入に対する VAT 支払い責任はないとした。2001年AGM で年会費を 10 ポンドに値上げしたが、2003／04の値上げはない見込み。

第2回指導スキルズ講座を実施。ダンシング熟練度試験を見直し、5等級の評価に変えた。2003年に日本とオーストラリアで指導者試験実施。

Book 42 を発行し、Book 43 ダンスの選定に入っている。エリザベス女王即位 50 年を祝ってジョン・ドルーリとアラン・マクファーソンにダンス創作を依頼し、女王に捧げた。ダンスは Book 43 に入れることを計画。

サマースクールには817人が参加し、ほとんどは1週間組で2週間いたのは143人〔17.5%〕。はじめてという参加者が多い。アンケートではみな満足しており、食事の水準は「卓越している」との回答。ウィンタースクールは定例行事となり、心配は雪のみ。

学校教師用に“Dance Scottish”パッケージを製作した。スコットランドの学校への普及が目的だが、イングランドも目標とする。ヤングダンサーを対象としてイースタースクールを実施し、参加者は 37 人だったがたいへん楽しかった。こどものダンスレベル試験のために、実施要領をつくっている。

p.7-11-2001 年パース AGM の議事録。 埼玉ブランチ、ダービーシャー・ブランチが設立された。Book 42 用に 68 のダンス提出があった。レスター・ブランチと東京ブランチ連名で年会費 10 ポンドの修正案が出され、賛成多数で可決修正された。

新執行組織への変更について多くの修正案が提出され、それぞれ可決否決がなされたが、賛成188、反対30、棄権6で大筋の原案が可決決定した。

p.11-キーボードからのノート(ロバート・マッカイ)。

わたしはピアノ演奏と同じくらいダンサー経験があり、クラスで座りながら動きを楽しんでいる。ピアノと音楽の視点からみた感想を述べよう。

ダンサー全員が音楽をちゃんと聞いているわけではない。何人がピアニストの存在を知っているだろうか？これはフェアな質問でないかもしれない。ほとんどのクラスは録音音楽を使っているからである。リズムに合っていないダンサーほど、ピアノのそばにくる。間違っているのはダンサーなのか、それともピアニストなのか、混乱することがある。レッスンを注視しないほうがよいこともある。

サマースクールで、ピアニストはクラスの単なる部品ではなくなってきている。わたしは音楽の形式や、ちょっとだがその曲の由来や作曲者について語るのを楽しんでいる。音楽のレクチャーやミュージシャン・コースもさることながら、ダンサーがもっと音楽の知識を増やしてほしいと願っている。

ヤンガーホールにおけるデモンストレーションで弾くのはびくびくものである。たくさんの人が聞いているし、ダンサーの演技に大きな責任がある。ダンサーも緊張しているし、テンポを間違えたらダンシングはめちゃめちゃになる。

ダンス競技会、フェスティバルでは、とくにこどもたちのクラスでは図太く弾くこと。フロアでは何が起こるかわからないし、臨機応変の心構えがいる。少年たちがダンス中にスポランを落としてしまったことがあるし（一人は上手に取り直し、ダンスをつづけた）、他方そろいの白ドレスと髪型の少女8人は目印を付けてくれ、ピアニストが助けられたこともあった。あるヤングチームは32小節の踊りを 40 小節に変え、8小節の繰り返しが求められた。なぜいつも8小節ずつ弾くのか、わたしはあらためてわかった。チームが退場するとき笑顔を投げかけてくれ、「ありがとう」のことばはとてもうれしかった。こういうとき、骨折り甲斐があったと思う。他の楽器と違ってピアノは持ち運べない。運搬できるキーボードがあるが、ピアノ（とくにグランドピアノ）で得られる満足感は電子楽器ではけっして得られない。幸いサマースクールでは各クラスにピアノがあり、新しいピアノも入るという。短期間に多額の費用が集まったことに感心した。新しいピアノを弾くラッキーなピアニストはとても感謝することと思う。

かつてサマースクールで、何台ものピアノがガ

タガタだったことがある。ピアノの鍵のところどころに青い紙片が貼ってあり、「これは動きません」と書いてあった。とっても愉快なクラスになったけれどね。翌日、代わりのピアノが来てうれしかった。

クラスで弾くこと、終わっていろいろ質問されることがたいへん楽しい（どんなミュージシャンも）。その音楽、その由来を議論するのはいつも愉快だ。われわれをクラスの一員としてずっと考えてほしい。

p.12-投書。 ウィルソン・ニコルの「poussetteで男性はなぜ左足スタートなのか」は面白かった。アン・ゴードンのCD評もすてき（ドロシー・フライ、オーストラリア）。ウィルソン・ニコルの記事は理解に苦しむ。左足スタートはむずかしくない（ジム・ロニー、ニュージーランド）。新しい執行組織はかぎられた人たちの手ににぎられるのでは？（ジョン・カーズウェル、スコットランド）。会員全員が立候補できます（編集長）。クェーカー教徒ですが、どなたか *Merrily Danced the Quaker's Wife* の由来を知っていれば教えてください（ジョン・フォスター、スコットランド）。ジミー・シャンド彫像プロジェクトへのご厚意ありがとう。いつごろどこに立てるか、きまったらお知らせします（ジョン・トムソン、スコットランド）。

p.13-15-各ブランチのニュース。 25周年を祝った（ストックホルム）▷創立から65年目になる。毎週のビギナーズ・クラスを再開。コリン・デュアー楽団でヤンガーホールでアニュアル・ダンス開催（セント・アンドルーズ）▷50周年を祝い、アラン・メア夫妻も出席してくれた（リッチモンド）▷創立43年目になり、40回目のアニュアル・ボールを開催（北西クレイブン）▷創立10周年を迎え、毎週活発に各レベルのクラスを開催（ノーザン・テリトリー、オーストラリア）▷50年活動している。アラン・メア夫妻も出席し、イアン・ミュア楽団で記念行事実施。すてきなしおりを全員に配布（ポートラッシュ）▷ピクニック・ダンス会を開催。大戦中、当地で軍務についていたヒュー・フォスをしのんでかれのダンスをたくさん踊った（ミルトン・ケインズ）▷スコティッシュ・ナイトの写真です（メディシン・ハット、カナダ）▷40周年を迎えて記念ダンスブックを作った（ブリストル）▷50周年である。付近には20以上のグループがあり、教師はみなブランチで学んだ人である。ウィンタースクール2002を主管した（シドニー）▷創立50年で、ロゴ入りのジャージー、記念誌を作った。シャンペン・レセプションから始まる祝賀ボールにはアラン・メア夫妻、創立者のノラ・ダンも出席してくれた。多岐にわたって活動中（ヘレンズバラ）▷25周年を祝った。ダンスブックを作り、ブリスベンのウィンタースクール2001を主管した。州には20のクラブがあり、その代表者が2ヶ月ごとに集まってブランチ委員会を開いている（クィーンズランド）▷年少者、十代の会員増大に努め、チルドレンズ・ボールには80名の参加があった。十代クラスを卒業した会員は成人のクラスで踊っている（サンフランシスコ）▷25周年を祝った。ブランチは近隣のクラブと良好な関係を保っている。記念ボールでアラン・メア夫妻がケーキにナイフを入れた。創立者のブルース・フレイザーがブランチ史要約をまとめた（バークス/ハンツ/サリー・ボーダー）▷75周年になる。クラス教師を40年つとめて引退したナナ・シアラーに特別ダンスが捧げられた。記念ボールはD.カニングハム楽団演奏で本部関係者も呼び盛大に行なった（スターリング）。

p.16-ホリールード宮殿のガーデンパーティ。 2002.5.25、女王即位50年を祝うロイヤル・ガーデンパーティがホリールード宮殿で行なわれ、8,000人が出席した。16人のRSCDS参加者はいったん本部に集まり、タクシーに分乗して宮殿にむかった。降ったり晴れたりの天気で、各パイプバンドの演奏、近衛師団の分列行進を楽しんだ。即位の日に生まれた50人が女王に紹介された。RSCDSグループが女王と個人的に会うことはできなかったが、出席できてよかった（ダルシー・ボンド/シェフィールド支部）。

p.16-ラジオ番組"Take the Floor"。 BBCが即位50年番組としてライブ音楽シリーズを企画し、スコットランドの支部とダニディン・ダンサーズから合計12のチームがホリールード宮殿庭園に招かれ、その様子がラジオで生放送された〔録画も行なわれ、翌週月曜に一部が放映された〕。2002.6.1の4pm、ローズマリ・ゴードン・ハーヴィーとマーゴ・プリースリーの監督のもとで96人のリハーサルが始まった。当日のバンドはイアン・マクフェイル。

みんなカントリー・ダンスはうまいがケイリ・ダンスはそれほどでもない。*Anniversary Two Step* ではフロアの向こう側にいるパートナーを必死で探していたし、*Victory Waltz* の作者は「でこぼこ道の上で踊っているわけじゃないよ」と言ったに違いない。

エジンバラにしてはとんでもなく暖かい晩で、地元のダンサーは司会者ロビー・シェパードとバンドに、よい条件を提供できたと感じたはずである。よくよく考えれば、宮殿の庭でしとやかなピクニックをやることもできた。

音出しの時刻、7.05pmが近づいた。観客に囲まれ、ダンサーの訳知り顔にプレッシャーがかかった。副チェアマンのジーン・マーティンの様子は「フットワークよりもスマイルをみたい」と言っているかのようだった。ラジオ放送だっていうのにね。でもロビー・シェパードは500人以上の観

客を求めた。

キューが出て番組が始まり、支障なく進んだ。他のタレントやスコットランド電力のパイプバンドも出演した。プログラムは早く進みすぎ、突然だったがラストに1曲追加された。時宜を得た題名の *Fifty Years On* で、作者はジョン・ドルーリ、作曲はイアン・マクフェイルであった（スチュアート・アダム）。

p.17-スコシア号百年。 昨年、スコットランド地理学協会(RSGS)の会員もかねるグラスゴー支部の1会員から、ウィリアム・スピアズ・ブルースを記念する行事に協賛したら、という提案があった。

スコットランド南極探検隊を率い、ブルースは1902年11月にスコシア号でトゥルーンを出帆した。探検隊はウェッデル海付近の科学的・地理学的調査を成功裏に終え、1904年に無事帰還した。かれの名が浸透していないのは、シャクルトン隊やスコット隊のようなショッキングなできごとがなかったためだろう。

ダンス集を作るのは委員会にとって興味あることであり、挑戦でもあった。これは双方にとって有益ではないだろうかと考えた。RSGSは国立ユース・オーケストラとも共同作業に入っており、巡回展覧会も企画していたし、2004年の国際会議開催やその他多くのイベントを実施する。

ダンス創作をロイ・ゴールドリングに依頼し、ロイはミュリアル・ジョンストンの音楽を要請した。RSGSはソサエティの最終案を受け入れ、平易ながらデモンストレーションにも使える7つからなるダンス集とした。タイトルはすべてブルース隊に関連するものである。本の出版権はRSGSにある。

記念行事のロゴをこのページに載せた。由来は「樽の水は凍りついてしまい、火酒を飲まざるを得なかった」。そしてスコシア号の特別料理はペンギン・カレーだった。ブルースは別の探検隊に新鮮な肉を持っていくよう薦めている。

共同作業はうまくいっており、今後の指針となることを期待している（ローズマリ・ゴードン・ハーヴィー）。

p.18-寄付受領報告。

p.19-各ブランチの合宿/デイスクール日程。

p.20-リーフレット合本とその CD2 枚、学校用パッケージ「ダンス・スコティッシュ」の紹介。

p.21-ミッシソーガのフェスティバル。 8-19 歳の養護センター選抜メンバーが、多民族文化フェスティバルの一部として、カナダ・オンタリオ州ミッシソーガのスコティッシュ・パビリオンで公演した。車椅子や動力付の補助具で踊れるよう、ティーチャーのアルマ・スミスが *The Prince of Orange* と *Rabbie's Reel* に手を加えている。アルマはセンターの物理療法師、RSCDSフル資格者で1992年からスコティッシュ・ダンス、フォークダンスを手直しして教えている。公演は今回が最初。

週末にはパイパー、フィドラー、4歳から70歳のダンサーなどが出演した。歴史・芸術・文学を表わすパネル、ハギス・セレモニー、スコティッシュ・フードやドリンクの即売などで文化を PR し、観客とともに *The Dashing White Sergeant, Highland Schottische* を踊った。アルマのグループは日曜日のハイライトだった（ノラ・サザランド/トロント支部）

p.21-スコットランド資格認定院(SQA)と RSCDS。

"Higher" とは大学入学前の学生に対する試験制度のことで、ふつう5科目ある。ダンスにおける "Higher" はダンスの振付け（必修）40時間のほかに選択単位としてクラシック、モダン、スコティッシュなどがある。スコティッシュ・ダンス分野において、ソサエティの意向を反映したいと思う。教材にソサエティ出版物を使ってもらうことから始めたい（ジーン・マーティン）。

p.22-ソサエティの戦略計画。 1999年のエジンバラ AGM で12項目の戦略内容が承認され、これまでにユース委員会の発足、理事会の設置などいくつかの事項に進展があった。5カ年計画の残りに何を重点的にやるべきか、検討がなされた。2002年の目標が各委員会から報告されたが、締切りの関係でこの Bulletin には載っていない。もともとの目標や項目の中で放りっぱなしだったというものはどれ一つとしてないが、執行組織の変更とともに見直されるものがあると思う。

意見、提案などあればぜひわたしに送っていただきたい（ジーン・マーティン）。

p.22-23-ダンシング・イン・ロシア。 前号の東京ブランチレターに全訳を掲載済み。

p.24-25-ユース委員会だより。 "Dance Scottish" パッケージ—2001年夏の発売以来、500パックを超える量が出荷され、学校教師その他から好評を得ている。"Times Educational Supplement" 1月号でも絶賛された。フェスティバルや学校のダンス・デイではこのパックからのダンスが取り上げられている（フィオーナ・タンブル）。サマースクール、こども同伴可に—こどもはクラスに参加できないため、「子連れでサマースクール」は不可だった。セント・アンドルーズ大学との折衝の結果、2003年サマースクールの第3週、午前中は大学スポーツセンターがこどもの面倒を見ることになった（有料）。年かさのこどもには冒険コース、セーリング・コースもある。申込みはお早めに（フィオーナ・タンブル）。イースタースクールの報告と感想（抄訳略）。

p.26-ウィンタースクールの感想。 雪とエンターテインメントに囲まれた5夜だった。ボールルームを含む各種ダンス、RSCDSの歴史、本部員とのトークのほかに仲間とのトレッキングもあった。クラス・ティーチャーはアリソン・ラッセル、ソシャル・ダンシングは4人のミュージシャン、ケイリでは友人のカナダ人が本物のモカシン靴と赤帽子で *Indian River Strathspey* を踊った。ブレア城におけるボールは15年のダンシング経験中、実に印象に残るものだった。初回参加者からみて、スクールの最大の特長はそのソシャルな雰囲気であった（トニー&バーバラ・ピリング/バンフ県支部、スコットランド)。

p.26-27-故人への追悼。 デビッド・ブランドン—デビッドは2002年4月14日、狭心症で倒れ、意識回復することなく4月30日に亡くなった。

4月14日朝、デビッドはカリフォルニア州ロングビーチのクィーン・メリー号上で行なわれるダンス・コンテスト主催者として超多忙だった。全南カリフォルニアからやってきたチームはデビッドとメリーのプログラムを十分に楽しんだが、それはデビッドの献身の賜物だった。

デビッドは1966年、故スチュアート・スミスとともにロサンゼルス支部設立の原動力となり、初代チェアマンになった。メリーとのクラス、合宿によって支部は急速に発展した。

1972年、デビッドはIBMのハワイ支社に赴任し、夫妻はここでも支部設立を行ない、20年間クラスを指導した。〔東京支部設立にあたり、近隣支部として快く支援署名を行なってくれたのもデビッドである〕。退職後ロサンゼルスに戻ったデビッドとメリーは、支部、TAC, RSCDSのために精力的に働いた。デビッドは1996年にソサエティ功労者表彰を受賞した。

1998年のTAC AGMはロサンゼルス支部がホストとなって行なわれたが、実行委員長として活躍したのがデビッドである。そのすばらしいAGMもやはりクィーン・メリー号で行なわれ、これに参加した幸運な人はそのAGMを懐かしく思い出すことだろう（TACTALK、2002年7月号)。

アンドルー・ギリス—グラスゴーで生まれたアンドルーは、スコットランド人であることを誇りにしていた。ロンドンでクラスを指導し、米国、オーストラリアなどの海外ツアーにも参加した。クラスは技術向上を目指し、高いソシャル性と楽しさがあった。サマースクールでも彼はソサエティの看板であり、外国から来た人は彼のおかげですぐにその生活になじんだ。1988年に功労者表彰を受賞し、彼はたいへん誇りに思っていた。

クロイドン支部で一人何役もこなし、チェアマンもつとめた。80歳の誕生日には皇太后から祝賀文が届いたほどである。スコティッシュ・カントリー・ダンシングは大切な使節の1人—真の"Dancing Master"を失った（ローナ・オグルビー&ロバート・マッカイ）■

「充実感あった」支部合宿

ことしの合宿は2月15日・16日、神奈川県綾瀬市の石川島研修センターで行なわれ、91名が2つのテクニック・クラスと1つのソシャル・クラスに分かれて研修しました。

講師：小山芳樹・境雅子・林浩子・佐藤仁美
中田多鶴子・小幡正明・鈴木百代
ピアニスト：小海弘子・村上美枝子
パーティ・ミュージシャン：小海弘子・本守明美
菊池孝・大西弘美・小谷野千枝子
大井冨佐子・鈴木幸子・小幡正明

という豪華な顔ぶれ、食事の内容は十分、後片付けやトイレの掃除もなし、というわけでダンシングに集中することができました。各講師の熱心な指導、そして床の固さのため、終わるころにはいささか疲れが見えましたが、楽しく2日間を過ごせたと感じています。

小山芳樹さんから—『このたび、ブランチ合宿に参加させていただきました。思い起こしますと15年ぶりとなります。3クラスとも担当しましたので、全員の方とお会いすることができましたが、

15年の歳月とは長いもので、以前からよく存じている方が1/3、何度かお目にかかっている方が1/3、残りの方が初めてに近い方といった感じでした。

各クラスとも熱気と真剣さと楽しい雰囲気にあふれており、教えていても手ごたえのある楽しいクラスを持つことができました。初めてわたしのクラスを受けられた方が多いと思われますが、それをまったく感じさせず、多くのティーチャーが育ちスタンダードがしっかりしていることの成果と感じました。

また、日ごろピアニストとクラスを持つことの

少ない私にとって、小海さん・村上さんとクラスを持ったことは、大きな経験となりましたし、楽しいクラスとすることができました。パーティも手作りで、楽しく、全曲踊りました。

今回の企画を実現していただいた鳥山チェアマンをはじめとする委員会の方々にお礼申しあげます。参加された皆様とまたお会いできることを楽しみにしています』。

当夜のミュージシャンのみなさん

合宿アンケート結果はつぎのとおりです（回収数―テクニック・クラス 31、ソシャル・クラス 21、回収率 57%。集計担当　佐藤裕治）。

1. クラスの感想

クラスの内容	合　計	テクニック	ソシャル
大変良い	56%	71%	33%
良い	33	26	43
ふつう	6	0	14
不満	2	0	5
非常に不満	0	0	0

クラスの編成	合　計	テクニック	ソシャル
大変良い	25%	35%	14%
良い	44	55	29
ふつう	23	10	52
不満	2	0	5
非常に不満	2	0	0

クラスの楽しさ	合　計	テクニック	ソシャル
大変良い	37%	39%	33%
良い	52	55	48
ふつう	8	6	10
不満	2	3	0
非常に不満	0	0	0

2. ソシャル・ダンシング

ダンスの選定	合計	テクニック	ソシャル
大変良い	31%	39%	19%
良い	54	55	62
ふつう	4	6	0
不満	6	0	14
非常に不満	0	0	0

音　楽	合計	テクニック	ソシャル
大変良い	58%	61%	52%
良い	27	26	29
ふつう	8	3	14
不満	0	0	0
非常に不満	0	0	0

M　C	合計	テクニック	ソシャル
大変良い	19%	23%	10%
良い	33	35	29
ふつう	35	32	38
不満	6	0	14
非常に不満	2	3	0

3. 印象に残ったこと、有益だったこと

小山さんの情熱的な指導▹アンサンブルの音楽で盛りあがった▹Book の初期のものによいダンスがあるのを教えられた▹ていねいな指導▹成長を期待して MC を予備試験者に任せたこと▹新メンバーの参加▹知らない人との相部屋だったがとても楽しかった。

4. 改善したほうがよいこと

テクニックとソシャルの募集基準があいまい▹委員兼講師は負担が大きいのでは？▹MC は簡潔明瞭なリカップのできる人を▹クラスにおいて講師へのアドバイス、批評はつつしむべきでないか？▹気心の知れた人との相部屋を■

New Year Dance 2003

1 月 4 日（土）午後、東京北区赤羽会館に 130 人のダンサーがつどい、新春のダンスを楽しみました。支部財政を反映して地味茶菓でしたが、小海弘子さんのピアノ、大井冨佐子さんの会場デコレーションがダンシングを盛りあげました。会場を確保していただいた真庭成子さんをはじめとする赤羽 SCDC のみなさん、お手伝いいただいたスタッフのかたがたにお礼申しあげます■

チェアマン就任にあたって

（RSCDS チェアマン　ジーン・マーティン）

昨年 11 月 4 日（月）、北東スコットランドの地元紙 "The Press and Journal" の第 1 面は、『アバディーンの女性、地元で国際的組織のチェアマンに！』となっていました。RSCDS のチェアマンに選らばれるということはたいへんな名誉であり、それがわたしのホーム・シティでなされたことがなにかしら特別なことだったのでしょう。

RSCDS チェアマンという重責をひしひしと感じながらも、その職務は浮ついたものではなく、「これからの２年間、またフルタイムの仕事にもどるのだ」と十分に自覚しています。わたしはスコティッシュ・カントリー・ダンシングからたくさんの喜びを得ましたし、多くの友人をつくることができました。その喜びをお返しするとき、それが今なのだと思っています。

わたしの人生にいつダンシングが入り込んだのか、思い出せません。小さいころ、ラジオのスコティッシュ・カントリー・ダンス番組を土曜日の夜遅くまで聴いていましたが、両親はなにも言わなかった記憶があります。もちろんこの地方にテレビが普及する以前のことでした。

1950 年代のここフレイザーバラ Fraserburgh のこどもたちには、体を動かすたくさんの遊びがありました。北海での水泳、テニス、ホッケー、そしてダンシングです。地域のパーティで踊られていたのは、今日ケイリ・ダンスとよばれる種類のもので、だれもが踊っていました。60 年代に入るとともに、そういうダンスはプログラムから消えてしまったのです。

そのころボビー・ワトソン（ハイランド、SCD の大御所）がフレイザーバラを含めアバディーン県の各所でダンス・クラスを開いており、仲間もそうでしたが、わたしも２つの木の剣の上で不恰好ながらちゃんと踊ったことがあります。剣は父の手作りでした。スウォード・ダンスを踊る能力は、もうはるか彼方です。

スコティッシュ・カントリー・ダンシングに出会ったのは中学生、ガール・ガイドに入ったときでした。ガール・ガイドではじめてデモンストレーションをやり、呼子笛、縄、その他をつけた制服で踊ったのが *The Reel of the 51st Division* でした。ですから、いまでもこの踊りがわたしの好きなダンスの１つになっています。

大学時代はスコティッシュ・カントリー・ダンス・クラブに籍を置き、60 年代の中ごろにアバディーン支部の会員になりました。インバルリー Inverurie で指導しはじめたのもこのころです。すぐナン・メイン〔ピアニスト〕にサマースクールに行けとすすめられ、たいへん楽しく過ごしました。以来、ずっとセント・アンドルーズに参加しています。

1968 年に予備試験をうけ、フル資格をとったのは 1972 年でした。この 4 年の間にイアン・マーティンとの結婚があり（かれとは支部のダンス・クラスで知り合ったのです）、２年間のスイス生活がありました。スイスで昼間、大人と中学生を対象に指導したのが、わたしの大きな喜びとなっています。アバディーンにもどって、支部の活動や指導、ダンシング、委員会運営にどっぷり携わることになり、1999－2001 年はチェアマンを仰せつかるようになりました。ミレニアムの年は支部 75 周年を祝賀するため、とてつもなくエキサイティングでした。だれがその栄誉をになうか、競争があると思いますが、「100 周年を祝うケーキ・カットもわたしがやりたい」と述べたのですよ！

1978 年から 1998 年の勇退まで、わたしはアバディーン・コレッジで授業していました。ここはスコットランドで最大の高等専門学校です。わたしは徐々に昇進のはしごを昇り、勇退時は 70 名のスタッフを擁する、情報通信・言語・メディア研究部門を統括していました。この時代は高専教育に大きな変革があり、たくさんの挑戦がなされた時期でした。

昨年〔2001 年〕パースにおける AGM で、レスリー・マーティンが副チェアマンとしてのわたしにこう述べました。「北東スコットランド出身者として、その足元は地にしっかり置くべきであり、気まぐれに浮ついたらだめ！」。わたしはこの言葉は本質をついていると思います。北東スコットランドの寒風の中で育った人間は、実際を重んじ

る傾向がありますが、展望がないとか将来像を見通す能力がないということではありません。

RSCDS のチェアマンになるということは、毎日が挑戦ということです。しかも 2002 年、わたしたちは新しい執行組織に移行します。が、これは事業ではありません。理事会は強力なチームであり、会員の関心を満たすため全員が結集することを信じています。わたしはまた、理事会全体がソサエティの計画における代表者となることを望んでいます。しかしながら、理事会メンバーは全能の解答者ではありません。「こうしたほうがよい」というアイデアがあれば、どうぞ遠慮なくわたしたちにお知らせください。

どんな組織においても常に求められることの１つは、良好なコミュニケーションです。世界各地に住むメンバーにとって、それは何を意味するでしょうか？ある人にとってはRSCDSのインターネット画面でしょうし、またある人にとってはニューズブリーフやブリティンの受領でありましょう。いうまでもなく、人と人との出会いによる直接コンタクトは比べものにはなりません。

ビジネスの世界では電子手段によるコミュニケーションが普及しており、わたしたちメンバーの多くでは（とくに英国以外で）この方法が常識となっています。収入のほとんどを年会費に頼っているかぎり、そして活動が無償の献身にかたよっているかぎり、このような変化に歩調を合わせることは困難です。何にも増してわたしたちが考えなければいけないのは会員すべてのニーズに応えることです。e-mail 機能を充実させなければ、おそらくこういったことに前進はみられないでしょうが、コミュニケーション手段だけでなく、「ニーズに応えているか」を自問することが必要ではないでしょうか。

2001 年 11 月の AGM で新しい執行組織への移行がきまりましたが、理事会と委員会の人選はブランチの選挙人による投票、という従来のやり方を残しました。新しい組織がうまく機能しているかどうかについて、性急な判断をなさらないよう希望しています。また、ソサエティの会員制度についても再検討しなければならないと思います。どんな変更も、第１歩を踏み出すには大きな困難性がつきまといます。ある処置をとるのに、急がされてはならないと思いますし、修正は容易にとれるようにすべきです。

昨年１年間、ソサエティ各委員会は５カ年計画に肉付けを行ない、秋にいたって進捗状況を精査しました。成果がどれくらい上がっているか、理事会で確認が行なわれています。大切なのは旧組織のよいところは残すということです。新規各委員会は、秋季会議からのレポートにもとづいて作業を始めることになります。

将来を見通すとき、わたしは１人のエジンバラの若い会員による インターネットStrathspey上の意見に、とても勇気づけられました。Q＆A 方式で、こう述べていました。
「わたしにとって RSCDS とは何なのですか？」
「それはブックでなく、CD でなく、ニューズレターでもありません。わたしたちの愛するダンシングが、いまもそして将来も存在する、ということです。RSCDS とはティーチャーのためのトレーニングであり、高いダンシング・スタンダードを確立することであり、世界の仲間との協調であり、SCD における唯一の情報発信源であり、意見発表の場である、ということです」

ソサエティ会員は SCD への情熱を通して何か活動したいと考え、わたしたちがやっていることを他の人に理解してもらおうとしています。

ここまでの文章を読んだみなさんは、わたしの優先順位がどのようであるか、おわかりになったことと思います。つまり、本部と支部/会員とのコミュニケーションをどのようにするか、より多くの人を RSCDS に集結させるためにはどのような会員制度にするかです。これに加えて、わたしはティーチャー資格方式の見直し、スコットランドの総合大学/教員大学によるティーチャー資格認証の増大、エギザミナーにおける新人の任命、を検討したいと思います。

わたしたちはもちろん新しい会員、年少会員、ソサエティ運営に積極的な人たちの加入を切望しています。世界ダンスの日、フェスティバル、18-30 歳のためのイースタースクール、世界中で行なわれているダンス・イベントは、わたしたちにとって将来への大きな希望です。昨年のイースタースクールにおけるボールで、わたしはジャージーを着た青年と踊ったのです。ミス・ミリガン、ミセス・スチュアートがかれの服装をどう感じるかわかりませんが、その場のはちきれるような元気に感心し、「これもスコティッシュ・カントリー・ダンシングよ」と言ったに違いありません。
(“Introducing Jean Martin, the new RSCDS Chairman” by herself, from The Reel No.242, Dec-Feb 2003, published by the RSCDS London) ■

「立ったまま」も美しい

（バンクーバー支部　ローズマリ・クープ）

Polharrow Burn で 4 組はセットの真ん中で立ったまま、というフレーズがある。このとき 1・3 組はパートナーとターンし、2・5 組はセットの周辺を回っている。このフレーズは、動きの中心にいて、渦巻きのように回る動きを見ている4組に、引立て役としての感覚を与えている。

演技のダンシングと異なり、ソシャル・ダンシングには安らぎのとき、音楽を楽しむとき、パートナーを見つめあうときがいつもある。大むかし、「長いほどよい」といったセットのとき、トップ・カップルはボトムに達するまで踊り続けるため、休む時間はごく短かった。いっぽう、トップに上がってゆくカップルには会話の時間があり、会話があれば評判の高まりや失墜が起こり、また互いのつながりができたと思われる。

いまわたしたちは楽しむために踊っており、お付きの人間の目を盗んでつかの間の自由を得るためではない。サポーティング・カップルは、より積極的な役割を果たすよう求められている。新しい創作ダンスには、*Flowers of Edinburgh* の 3 組のように、何もしないでそこにいるだけというパターンはない。*J.B.Milne, Australian Ladies, The Luckenbooth Brooch* のようなダンスでは、1組と“同時に”2・3組にも独自のパターンがある。これは RSCDS 再興時の明確な流れを引き継いだものである。つまりオリジナルの文献では1組のみの動きであったものを、ソサエティはこれを全3カップルの動きに変えたのである。例をあげると、*Maxwell's Rant* と *Gates of Edinburgh* の終わりの4小節ターンである。

サポーティング・カップルの積極的な役割をうながしているもう一つの要因は、いまや標準となった4カップル・セットにあり、これには踊らない時間が備わっている。セットのトップに来た2組にとっては1組の動きを覚えるラスト・チャンスであるが、同時にこれからのダンシングを期待して楽しむときである。つづいて1組はボトムに達し、ここでも休みのときがあり、満足感にひたるということになる。マラソンのトレーニングと違い、われわれの体力の許容範囲は *Gates of Edinburgh* のように全3カップルが 32 小節動くというダンスまでである。

4カップル・セットのダンスにおいて、サポーティング・カップルには息抜きの時間があり、これが1組の動きを際立たせている。全世界で人気投票をやったら、おそらくトップに位置する2つのダンス、 *Mairi's Wedding* と *The Montgomeries' Rant* にはサポーティング・カップルにおのおの 16 小節の休みがある。コーナー・フィギュアにももちろん「コーナーは休止」というときがあるが、*Quarries'Jig* および *Bonnie Ina Campbell* のコーナー・フィギュアでは、コーナーは始終動いている。

しかしながら、動きと休止の間隔は、ダンサーにいささかの余裕を与えるため、少なくとも4小節を必要とするのではなかろうか。2小節ごとのスタートとストップ、たとえば corner chain や spoke にはいささか戸惑いを感じさせるものがある。 *Postie's Jig* のアーチ、*Pelorus Jack* における休止後の最後の2小節セッティングもしかりである。

休止のタイミングもまた重要である。*The Roserath Cross* を例にとろう。このダンスの最初と最後のフレーズでは全3カップルが同時に動く。2回目のダンスが終わるとき、1組はアクロスのリールを終えてボトムに移るが、サイドのリールに入るボトム・カップルの邪魔をしないよう、アクロスのリール終了とボトムへの移動を同時にやらなければならない。このアクロスのリールを1組だけの figure of eight に代えることができないものかと思う。対照的に *Mairi's Wedding* にも同じトランジションがあるけれど、このダンスでは 1 組だけがダンスをスタートするし、*The Button Boy* でも1組だけの動きである。

4カップル・ダンスにおける新しいやり方はスコティッシュ・カントリー・ダンシングの美しさをさらに向上させている。つまり、1組・4組がたがいに鏡のように動くため、ダンスに対称感を与えている。だが、全カップルがダンスにとりこまれ、トップないしボトムに達したときも休みはないので、ダンサーは常に動きつづけることになる。*The Diamond Jubilee* はいいダンスだが、しょっちゅう踊られてはいない。たぶんサポーティング・カップルの休みが最初の8小節だけ、という理由によるものであろう。これにくらべて *MacLeod's Fancy* では、最初と最後の8小節、サポーティング・カップルは立ったままで、ダンシングと休止がほどよくまとめられている。

スクェア・セットのダンスも動くことばかりでダンサーを参らせることがある。トップとボトム・カップルの動きをこんどはサイドのカップルるがやる、という反復形式でこれを解決しているダンスもある。*Round Reel of Eight* や *Summer Assembly* などである。多くのスクェア・セット・ダンスがハンズ・ラウンドで踊りを終わらせており、ダンシングを最高潮に導いている。けれども、*Rothesay Rant*〔ロスシー・ラント。ロザセイではない〕にはいささか疲れと減退感を覚える。ハンズ・ラウンドのあと、また全員がスタート、なのである。*Clutha* はもっとましな構成になっていて、2カップルによる 32 小節のダンスののち、全4カップルによる 16 小節の高揚がつづき、そしてこれを別の2カップルがリーディングして反復する。

「立ったまま」、それもダンスの一部として取り入れられるべきである。(“The Fine Art of Standing Still” by Rosemary Coupe, from The White Cockade, Sep 2002, published by the RSCDS Vancouver) ■

Fight for Flight

（東海支部　岡田昌子）

（エディター前文）毎年10月に東京ハイランド・ゲームズが開催され、カントリー・ダンスもその種目の1つとなっている。以下の文はダンス審査員の講評を岡田昌子さんがまとめたもので、東京支部のダンサーにおいても有用と考えられるため、岡田さんの了解を得て転載する。

今年の審判は、長年エディンバラ・ブランチのデモンストレーション・チームを指導し、世界一に育てた高名な教師スタンリィ・ウィルキー氏でした。氏は日本のダンサーの技術水準の高さに感銘を受けたと言われましたが、またそこに共通する弱点も見出されました。核心をつく助言と着目はさすがに日ごろ思い当たることばかりで、頭が下がりました。みなさんも同感されることでしょう。わたしなりの言葉、意見を添えてお伝えします。

共通する美点

- フォーメーションを理解し、よくカバリングしている。
- チームワークがよい。
- 協力し合ってダンシングを作り上げていることがよくわかる。

共通する難点

- ステップが平板すぎる。もっとフライトやアージを加え、ウォークでなく活き活きとダンシングを。
- ダンサー間のコミュニケーションが足りない。無表情である。

テクニックでは

- 音楽、ステップのテンポとリズムを完全に同化（同期）させること。
- ストラスペイ・トラベリングの第1歩はもっと強いアクセントを。アクセントのないステップはダンシングといえない、単なるウォーキングである。
- スキップ・チェンジ・オブ・ステップのホップはもっと軽やかに高く。フライトのないステップ、これも単に歩いているだけである。
- ステップは音楽の最後の小節まで正確に踊り、省略しない。

手のとり方

- 全体に手をつなぐ高さが低すぎる。肩の高さでつなぎ、ひじを下げ必ず“V”形を作る。“L”に近いダンサーが多い。
- ハンズ・ラウンドでは2ダンサー間に“W”を作り、崩さない。
- ハンズ・アクロスは対角線上の人と必ずシェイクハンドし、上下から押し合う。4つの手を単に1つに集めるのではない。
- アレマンドの左手はリードの手。左側方でなく正面へ。

アイ・コンタクト（ソシャル・ダンシングの最重要事項）

- ともに踊る人とのアイ・コンタクトが非常に弱い。（これを毎回指摘され、実感としてわたしは新語を作ってしまいました。「目言葉で話しかけよう」。目が痛くなりそうかなァ。でも使える言葉じゃない？）
- もっとすれ違う人とアイ・コンタクトを。とくにリール・オブ・スリーやフォーでは横の人ばかり見て、かんじんのすれ違う人をぜんぜん見ていない。よそ見ばかりしているのでソシャルの雰囲気が感じられない。
- リード・ダウンやアップで、下を向きパートナーを見ていない。
- だれかに近づくときには、必ずその人に「目言葉」で話す。
- 手をとるときには、手だけでなく必ず「目言葉」を送る。

ソシャル・ダンシング（出会いと別れ、ハロー＆グッバイ）

- 手をとるとき、出会うとき、向き合うとき、心でいつもハローを。そして手を放すとき、行き過ぎるとき、離れるときは心の中でグッバイ。
- 心をこめて相手と踊ろう。相手が「パートナーになれて幸せいっぱいだった」と感じるように踊ろう。

フォーメーションでは

- ダブル・トライアングルズの腕は曲げずに十分に伸ばして。
- セット&リンクでは手を放すのが早すぎる。もっと相手の手助けを。
- サークルではヘッドアップ、床を見ないこと。手は“W”。

（ブルーベルソサエティ 2003 Information から転載）■

本部会費（円価）の改定について

(Tom Toriyama)

1ページの年会費額をご覧になって「値上げなしといっているのに、なんで本部会費が¥500 上がるの？」と思われたかたが多いと存じます。

本部会費 10 ﾎﾟﾝとそのままですが、昨今の円安・ポンド高で 10 ﾎﾟﾝを本部送金するとまるまる¥2,000 かかり、これでは本部配布品（Bulletin, Newsbrief, Book 43）の国内郵便代もまかなえない、という事情にあります。よって¥250/£の換算レートを使用し、本部会費¥2,500 としました。事情ご賢察のうえご了承お願いいたします。

ニュージーランド、そしてサマースクール

（春日　寛司）

RSCDS ニュージーランド(NZ)・ブランチのサマースクールはよく知られている。過去に五十嵐成子さん、小山芳樹さん、トム鳥山さんをはじめ、かなりの人が参加されている。開催場所は毎年変わり、ことしは南島のクライストチャーチで 12 月 28 日から１月５日まで行なわれた。

わたし共はフランスから、パリ支部の前会長のジネット、ポール、ルネと一緒に参加した。日本人がアルゼンチンやチリを遠いと思うように、フランス人にとって NZ は遥か遠い国、地球の中心を突き抜けて真裏に位置する。まっ暗な冬の北ヨーロッパから来ると南半球は真夏、太陽がまぶしい。NZ の国土はフランスの 1/3（日本の７割）、人口は横浜市のそれと同じくらいである。

シンガポール航空でパリからシンガポール経由北島のオークランドまで 24 時間（成田から 10 時間）、フランスとの時差は 11 時間である。

さて飛行機に搭乗、ジネットのみクラス・ダフェール(ビジネス)である。ジネットに「席はもっと後ろだよ！」と茶化すと、「バカンス・ド・ノエル（クリスマス休暇）でエコノミーは満席、格上げしてくれたの」とニコニコ。わたしたちはひたいが前の席にくっつきそうなところで小さくなっているのに、ジネットったら長々として。「くそー、東洋人は白人に甘いからなあ」。格安きっぷは一緒に買ったのに。

オークランドの入国審査で時間がかかる。荷物を引き取り、クライストチャーチ行きに乗るため、X 線検査して再チェックインする。この国は銃器と麻薬に極めて厳しい。見つかったら留置場へ直行である。国内線ターミナルへはバス。トランジットに２時間半はみておきたい。ちなみにクライストチャーチから日本に帰る場合、荷物は成田までスルー、出国審査は 10 分とかからない。出て行く人はどんどん出てくださいというわけ。

クライストチャーチ行きは双発のプロペラ機で、紺碧の南太平洋をのんびり飛んでゆく。のどかでよい。空港で見た人々は、フランス人よりも太っている人が多い。また、東洋系の人の多いのにおどろく。

クライストチャーチに着き、地元のダンサーの出迎えを得てかれらの車で開催場所のカンタベリ大学に向かう。風が強いと夏でも肌寒いが、なくなればかなり暑い。陽射しが強いので女性は紫外線に気をつけよう。街は英国の中都市によく似ている。スコットランドからの移民もかなりあって、屋根にセント・アンドリュース旗を高々と掲げた家、建物がある。NZ に限らず、海外のスコティッシュは陽気である。気候風土の違いとイングランドとの陰湿な歴史から解放されたせいかもしれない。

宿舎に到着。ふだんは学生寮で、すべてシングルルーム、清潔である。歴史が浅いだけ新しい。とはいってもカンタベリ大学は 1873 年（明６）創立で、東京大学よりも４年早い。５部屋に１つの割合で洗面所とシャワーがある。食事は多少気合が入っていてセント・アンドリュースよりはましし（フランス人談）。

200 人強の参加者は地元 NZ のほか、オーストラリア、カナダ、アメリカからで、あまりに遠いためヨーロッパからはわたし達フランスのみである。日本人は茨城、千葉の人たちとわたし共の計８名。クラスは初級から上級、ジュニアからシニアまでと、細かく９クラスもある。家族ぐるみの参加者もかなりいる。

わたし達アドバンス・クラスは 30 数人だが、アドバンス・テクニック・クラスは 60 人強で最大のクラスである。わたし達の先生はマーガレット・シム（オーストラリア）。おもだった指導者・ミュージシャンは、ビル・ゾベル（米国・アドバンス・テクニック担当）、ミュリエル・ジョンストン（米国・ピアノ）、キャシー・フレーザー（NZ・フィドル）、そして地元の人間である。

食事は大食堂のバッフェ方式、セッティングは一度もなかった。食事中ワイン等の酒類を飲んでいる人はだれもいない。セント・アンドリュースのようなボール箱入りのワインを見るよりはましだが、ちょっとさびしい。たまにはワインつきで食事を楽しみたい。

この国はオーストラリアほど知られていないが、かなり良質のワインを産する。カベルネ、ピノの赤も悪くないが、シャルドネ、ソービニヨンの白が手ごろである。赤はフランスにうまいのがありすぎるのである。

ビールも地ビールのよいものがある。一般市販品のライオンレッドやスタインラガーも結構いける。ただ日本のスーパードライのように、ノドごしがぴりぴりするビールを飲みなれると、こちらのものは多少気が抜けた感じがする。

パブもそこら中にある。スコットランド旗を掲げたパブに入ったら、レスラーのような体格の主人が「なに、日本人がスコティッシュ・ダンスをやる？ガハハハ･･･。ちょっとそこで踊ってみせてくれ」。エジンバラの出身で、親や親戚がまだ住んでいるので毎年里帰りする、などと身の上話を聞かしてくれた。「うまい生ビールが飲みたい？よし、おれのおごりだ」とハーフパイントを４種類ごちそうになった。

８泊９日のスクールは 9－12 時までクラス（途中 30 分のブレイクあり）で、わたし達はおもに Book 42 のダンスを踊った。午後は自由選択で地元のダンス、音楽クラス、観光などがある。夜は６回のバル（ボール）があり、ホグマニー・ダン

ジネット・ダユール、組織委員長ダグ・ミルズ、春日暢子

スほか毎晩趣向を変えてプログラムされている。それにケーリーとクイズ・ナイトが加わる。ダンスは毎回変わるが、MC の好みで選ばれるので、同じ曲が何回も出てくる。 *The Reel of the 51st Division* も何度か登場し、作られた頃をしのんで男ばかりの1セットがホールの中ほどで踊られた。

ダンスばかりでは、という人のためには9ホールのゴルフも近くにある。ゴルフ場はたくさんあるし、しかも安い。けれども、ゴルフでシングルだ、なんて言ってもだれも尊敬しない。ここではやはりラグビーである。世界に冠たるオール・ブラックスをはじめ、国内にごまんとラグビー・クラブがあり、プロのリーグがあり、かなりの年までラグビーを楽しむ。会計士、弁護士、医者、教授、経営者などステイタスのある人のラガーメンが多い。ラグビーだけ上手で学業はだめ、なんて学生はまるで尊敬されない。学問もそこそこに究めないといけない。

ラグビーのつぎはヨット。国民の5人に1人は舟を持っているという。ヨット・レースの頂点、アメリカズ・カップの保持国として今日つとに有名である。チーム・ニュージーランド艇はなみいる世界の富豪艇を撃破、2回連続でカップを防衛している。3回目の防衛がなるかどうか、とにかく桁外れのお金がかかるレースなのだ。(その後、NZ 艇は5戦全敗でカップをスイスに奪われた。スイス艇の艇長は NZ 人)。

このようにこの国はスポーツが盛んで国民全体が何かのスポーツに参加している。2003 年はエベレスト初登頂から 50 年であるが、そのエドマンド・ヒラリーは NZ 人である。健康に有害なものにはとくにうるさい。スクールでも街中でもたばこを吸っている人は皆無である。あらゆる場所がスモーク・フリー（喫煙厳禁）である。

さて、南島のサマースクールに参加されたら2日くらいはゆっくりして、ぜひマウント・クックへ行こう。クライストチャーチからセスナ機での遊覧飛行は、せまい谷あいを抜け、ピークを回り、急降下して飛ぶ。雄大な景色をながめ、こんどはスキーをはいた飛行機に乗り換えて雪渓に着地する。どんなジェットコースターやバンジー・ジャンプよりもスリルがあって面白い。

次回のサマースクールは北島のハミルトンで開催される。休みを利用して、みなさん暖かい南半球にぜひお出かけください■

新刊紹介 (Tom Toriyama)

インヴァネスの B&B から
スコットランドふらふら紀行　石井理恵子著

スコットランドに関心を持つきっかけはさまざまである。知り合った外国人がスコティッシュだった、あるいはパグパイプにひかれた、シングルモルトが気に入った、反骨なのでみんなが話題にするイングランドよりスコットランドに好奇心がわいた、など。わたしたちはダンスからスコットランドにのめりこんでいったわけだが、著者はマルチチャネル・テレビのドラマ「マクベス巡査」が気に入り、「ロケ地を訪ねたい」という気持ちが始まりであった。

著者はスコットランド全般について勉強中であり、いくらかミーハー的な発想に顔をしかめるむきもあろうと思うが、動機は何であれ短期間に多くのものを吸収した意気込みに感心させられる。

一般の旅行案内書に必ず述べられているエジンバラ、グラスゴーに関する文章はほとんどなく、インバネスを起点とするハイランドの記述ばかりである。英国人とその夫人の日本人女性が経営している2室の B&B の日常が温かい目で描かれ、無銭宿泊者や、食事が合わなかったのか、1週間も自室に閉じこもった日本女性など、困った客の行状にはおどろく。

食事、音楽、パブ、映画など、体験がそのまま語られている。まずい食事もあったはずだが、本によればスコットランドは美味天国である。「マクベス巡査」のロケ地、プロックトンを訪れたときの感慨も素直で、いやみがない。城、ウィスキ

一製造、島、動物の案内もふつうの旅行書にはない新鮮な感覚で述べられている。末尾のおみやげア・ラ・カルト、「これがみやげになるの？」というわれわれの先入観が問われるものばかりである。

個性的なスコットランド案内書・体験記を、という人に最適。オールカラー（新紀元社。¥1,300）。

図説 スコットランドの歴史

リチャード・キレーン著

先史時代から 20 世紀までのスコットランド史を豊富なイラストとともに現している。第 1 章「先史時代」、第 12 章「スコットランドの独立」というように、その時代を 4 ページ程度に区切り、31 章で歴史を述べている。原本は 66 ページの総カラーの手軽な本。日本語版は 187 ページで、これは日本語自体が論理的な言語でないことと、読者の理解を助けるため各章に詳しい訳注が付さ

れたためである。著者リチード・キレーンはアイルランドの歴史家、中世・近世史を得意とする。したがって 19 世紀以降は 3 章分のみである。

またこのような通史の常として、おのおのの時代、一般大衆の暮らしがどうだったのかは述べられていない。訳者は静岡大学の人で訳文はいくらか硬いが、W.ウォレス、メアリ女王、グレンコー、プリンス・チャーリー、クリアランスなど「そうなのか」という記述が随所にみられる（岩井淳・井藤早織訳　彩流社。¥1,800）■。

新 CD 紹介 （Tom Toriyama）

このところ日本はリストラ、デフレで支出制限の毎日だが、外国 CD は新発売がつづいている。

(1) Golden Jubilee Book of Dances (C0 KEN005) by Barbara Manning and Ken Martlew
Albert's Welcome to Potten End (4x48J), Anniversary Medley (4x(64S+64R)), Ard Choille (8x32S), The Black Bear (8x32H), Blenheim Gardens (8x32R), The Children of the Briton (3x32S), Ian Hasnae Crossed the Brae (8x32R), John's Jig (8x32J), Lady Fenella Fogarty (8x32J), Mrs Litten's Reel (8x32R), Mr & Mrs Munro (8x32R), Widdershins (8x32J)

(2) Special Requests vol 5 (SRCD005) by The Colin Dewar Scottish Dance Band
Cadgers in the Cannongate (8x48R), *Hamilton Welcome (5x32S), *Welcome to Dufftown (8x32J), Inverneil House (8x32R), Culla Bay (4x32S), *The Recumbent Stone (5x48R), *Airie Bennan (5x32J), *The Secret Garden (3x40S), Irish Rover (8x32R), EH3 7AF (8x32R), *Lady Peak's Strathspey (8x32S), *Reel of the Gordon Highlanders (8x32R), Pelorus Jack (8x32J)　**＊印 ダンス・インストラクションつき。**

(3) Miss Ogilvie's Fancy (KSCD009) by Green Ginger
The Starry Eyed Lassie (8x32J), Swiss Lassie (8x32R), 5x32 Strathspeys, 6x32 Reels, Waltzes, Lady Catherine Bruce's Reel (8x32J), Captain McBride's Hornpipe (8x32R), 3x32 Song Airs, The Plantation Reel (5x32R), Slow Air, 3x32 Jigs, Miss Ogilvie's Fancy (8x32S), The Clansman (8x32R), 6x32 Jigs, General Stuart's Reel (8x32R), Listening Medley

(4) Music for the Scotia Centenary (CD032) by Neil Barron and his Band
Antarctica Bound (4x32J), Scotia Sea (8x32R), The Ice Cap (96S), Coats Land (8x32J), Bruce's Men (3x32S), The Piper and the Penguin (88R), Speirs Bruce – The Pole Star (8x32J), 2 Tunes of Pipe Music, "South" by the National Youth Orchestra of Scotland

(1)はロンドン郊外バーカムステッド・クラブ　Berkhamsted Strathspey and Reel Club の創立 50 年記念ダンスブック用の音楽。バーバラ・マニング（フィドル）とケン・マートルー（ピアノ）のデュオである。ケン・マートルーは RSCDS サマースクール常連の、話し出したら止まることがない、というおじさん。ケン作曲のオリジナルもあるが、多くはどこかで聞いたメロディが続々と出てくる。曲のタイトルを知るに適した CD である。*The Black Bear* は「ホーンパイプとはこういうリズムか」を知ることができる。*Mr & Mrs Munro* にはメンデルスゾーンの有名な曲も登場する。

どのトラックでも元気で力強い演奏であり、なよなよしたところがない。繊細さはほとんどみられないが、これが本来のカントリー・ダンス音楽の演奏なのだ、という一方向を示している。

PC を利用した手作りの CD なので、ケースを開くと一瞬びっくりする。ダンスブックは譜面つき。**〔注文略号：バーカムステッド CD・バーカムステッド・ブック〕**

(2)はコリン・デュワー（リード・アコーディオン）楽団の最新作。無事これ名馬というわけで、とりたてて特徴のあるバンドではないが、10 年弱にわたり CD を出し続けるの

は見上げたものである。どの演奏も安定していて充実ぶりをしめしている。欲をいえば、ピアノ、ベース、ドラムスのリズム隊に変化や遊び心がほしい。*Culla Bay* は作者アン・ディックスの納得が得られる演奏（アンは、流麗すぎるミュリアルのCDには感心していない）。*Irish Rover* でオリジナルの演奏は初回のみである。

〔注文略号：コリン・デュワーCD〕

グリーン・ジンジャー（イアンとメリル・トムソンのフィドル、ピアノがカル・スローン）による２枚目のCDが（３）である。最初のCDもよかったが、それから２年、このCDには英国・欧州における数々の演奏経験の成果が現れている。フィドル同士がからまり、離れ、刺激しあい、ときには相手を引き立たせ、そこにピアノが間をおぎなってゆく、艶やかな演奏が展開されている。イアンは昔の音楽に傾注していて、オルタナティブのほとんどはニール・ガウ、W.マーシャル、R.マッキントッシュなどのクラシックで、ここまで徹底するかと思うほどである。

CD 中の RSCDS ダンスの演奏は、同じ曲を演奏する他バンドよりも１馬身先を行っている。ことに *General Stuart's Reel* は、ダブル・フィドルの特長がとてもよく現れていて楽しい。6x32 の２曲も使い道が多い。

キース・スミスのカイリン・スタジオにおける録音は、英国でも録音に気を使っているやつがいる証拠である（録音品質にこだわったカントリー・ダンスCDはほとんどない）。

なお "Ogilvie"は「オギルヴィ」でなく、「オウグルヴィ」が原語に近い。

〔注文略号：グリーン・ジンジャーCD〕

（４）は本紙 p.7 の「スコシア号百年」の CD。これも安定した演奏で、一般的な出来栄えである。*Scotia Sea* にミュリアルらしさが現れているものの、全体は人をうならせるような作曲にはなっていない。ミュリアルとしては習作の部類である。７ダンスのほかに、パイプ演奏で２曲（無響の広野でひとりパイプを吹いているような印象。南極の氷原を表わしているか）およびスコットランド国立ユース・オーケストラによるゴードン・マクファーソン作曲の "South" を収録している。"South" は演奏時間 24 分で、バルトークがお好きな人なら聞き応えがあると思う。

ダンスブックは譜面つき。巻頭にプリンセス・ロイヤル、アン王女のお言葉がある。地理学協会への賛助金込みのため、ふつうのダンスブックよりも高価である。

〔注文略号：スコシア CD・スコシア・ブック。本紙次号でもご注文可。サマースクールでも入手可能〕

RSCDS Book のビデオ

本部が発売しているビデオは Book 39 のダンスまでで、これよりも新しい Book のビデオは発売されていない。ビデオ製作に大変な手間がかかる反面、売上げが少ないためと思われる。

では皆無か、というとさにあらず、本部の同意を得てヨーク市のマルカム・ブラウンがヨーク＆ハンバーサイド支部やリーズ支部の協力のもとに Book 40-42 のビデオを製作している。準公式で値段もそれなり（少量生産による）のため、また国内郵送料もかさむので、東京支部は積極的な宣伝を控えていた、という次第である。

「多少費用がかかっても入手したい」というご希望もあるため、ご紹介する。価格は下欄をご覧ください。

ブランチショップ（p.4 参照）－あなたの計算額	
バーカムステッド CD	¥2,600
バーカムステッド・ブック	¥1,000
コリン・デュワーCD	¥2,800
グリーン・ジンジャーCD	¥2,800
＊スコシア・セット(CD とブック)	¥4,200
＊（スコシア CD のみ）	(¥2,600)
＊（スコシア・ブックのみ）	(¥2,300)
＊Book 40 ビデオ	¥4,700
＊Book 41 ビデオ	¥4,700
＊Book 42 ビデオ	¥4,700
（いずれも送料込み）	

＊今回ぜんぶをご注文の場合、高額となるため、「＊印」の品は次の機会（ブランチレターNo. 60、７月発行）でもお申込を受付けます。

以上の CD、ブック、ビデオのご注文は

郵便振替　00240－0－　64517

東京ブランチ

（この口座は物品購入専用です）

締切り　4月25日（金）

お渡し　６月上旬（ブランチショップ商品は７月上旬）　　担当　藤田淑子■

ダンスを予約することについて

（ロンドン支部　ジュリアン・メイスン）

一つのしきたりとしてダンスを予約することが増えているけれども、他の人と同じように、わたしはダンス予約は好きでない。なぜみんなはそれをやるのだろうか？踊りに取り残される恐怖のためか？気の合うパートナーと、お気に入りのダンスを踊りたいためか？

ふつう女性のほうが多数派である。しかも控え目だというのだが（わたしは、ついぞそのような人にお目にかかったことがないけれど）、男性に対して、あるいはある程度踊りこんだ人に対して、ダンシングの予約を申し込む。同じことは男性にもあてはまるが、それほど多くない。

参加自由のイベントには魅力ある人、経験者、および（あえて言うが）われこそは、というダンサーが集まる傾向がある。だから、特定のパートナーがいない人、ダンスの予約にためらいがちの新顔は不利な立場に立たされる。これはいくぶん確率の問題でもある。

ロンドン支部はビギナーズの育成に熱心であるが、ビギナーズからある程度のレベルに進んだだれもが、支部のアニュアル・ボールの堅苦しさにおどろくと思う。会場ではいつものやり方とあべこべで、食前のカクテル・グラスのときにダンス＆パートナー・リストは埋まり始め、ディナー中には空欄がなくなってしまうのがふつうである。

どのような解決策があるのだろうか？わたしは英国流のよき折衷案を出したい。ダンスの予約は1/3または1/4にとどめ、残りはその場にまかせるというやり方である。

わたしの経験では、ダンシングにおけるもっとも大きな楽しみの一つは、不確定要素である。予期しなかった人とのダンシングを、わたしはたいへん好ましいものと思っている。フリーなダンスがなければ、なんとも面白くない。かつ、気が変わって、予約した人に「このダンスは別の人と踊りたいのだが」と切り出すのは不可能に近い。

つまるところ、わたしはどちらがよいかに帰すると思う。ダンス予約がなければ、イスに座るリスクがつきまとう。しかし、偶然性はスコティッシュ・カントリー・ダンシングに人をひきつける要因の一つであり、そのリスクは負担すべき価値があると思う。イスに座るリスクがあるダンス・イベントに参加するのはなるべく避け、ふだんは親しい仲間とだけ、あるいは部外者とまったくかかわりを持たずに踊る－わたしはこれは悲しいと思う。そしてあえて言うが、ミス・ミリガンならどのようにしたであろうか。(By Julian Mason, from The Reel No.236, May-Aug 2001, published by the RSCDS London) ■

ビル・クレメントさん、80回目の誕生日

（Tom Toriyama）

日本でもっとも親しまれているスコティッシュ・カントリー・ダンシング指導者、ビル・クレメントさんが、さる３月２５日、80回目の誕生日を迎えられました。誕生パーティは３月２３日、ソーンヒルのご自宅でダンス、パイプ、教会関係者をはじめ、たくさんの友人が集まり、盛大に開かれました。

最近ごく軽い心臓発作を起こされ、心配しましたが１週間ほどで退院され、大変元気です。「こころはまだ十代だよ」と意気軒昂で、頼まれたら断らないご性分のため、バグパイプの指導など、お忙しい毎日を送っておられます。

これからもますますお元気でご活躍されますよう、願っております■

グループ行事案内

金沢スコティッシュ・カントリー・ダンス・クラブ
2003 百万石パーティ
5月18日（日）10－3：30
川北町総合体育館
¥4,000
締切り　4月17日（木）
連絡先　渡辺美千代　076-243-7681

大宮台スコティッシュ・カントリー・ダンス・クラブ
アニアルボール
6月29日（日）10－4：00
レストラン ほていや
¥5,000
連絡先　大野悦子　043-253-2219

次号は7月発行予定。8-12月の行事お知らせ乞う

チェアマンから

（Tom Toriyama）

毎月の委員会、目先の課題解決に追われるという実情にありますが、「会員みなさんに公平」を念頭において打ち合わせを重ねています。議論した内容はそのつど本紙で明らかにし、「委員会は何を考えているのかわからない」というご不満がないようにと心がけております。しかし委員会は全能ではありません。お気づきの点があれば、遠慮なく運営委員にお伝えいただきたいと存じます。では6月の年次総会でまたお会いできるのを楽しみにしております■